

バンコクでの生活環境について
一般調査報告書

多くの日本企業で人事異動の時期となる4月から7月にかけては、任期を終え日本に帰国される方とともに、新たにタイへ赴任される方も多くなります。

当センターでは、タイへ進出を検討している愛知県内の企業の方から、タイでの生活環境について相談を受けることがあります。海外での生活となると、食事や病院、お子さんの教育環境など、現地での生活に不安な面もあるかと思えます。

今回、バンコクでの生活環境についてレポートしますので、これからタイに赴任される方等のご参考にしていただければと思います。

(住居)

赴任が決まるとまず住居を探されると思いますが、バンコクには日系の不動産業者がいくつかあり、希望するエリアや間取り、予算などを伝え、業者の方とともに候補物件を内見し決定することが多いです。

家具や冷蔵庫、洗濯機などは備え付けの物件が多く、日本から大きな家具を送る必要はあまりないですが、使い慣れた物など、内見の際に何が必要か確認されると良いでしょう。

また、電圧は日本と異なりますので、家電を日本から持ってくる場合、変圧器が必要な物もありますのでご注意ください。なお、バンコクにはリサイクルショップもあり家電やベビーチェアなども販売していますので、こうしたお店を利用しても便利です。

住居を決める際の注意点としては、タイは年間通じて暑い気候なため、南向きの部屋を避けることをお勧めします。また、雨季には激しいスコールが降り、道路の排水機能が弱い場所では度々冠水しますので、この点も確認されると良いです。

お子さんのいるご家族を中心に多くの日本人の方は、日本人学校や日本人向けの幼稚園があるスクンビット地区に住む方が多く、この地域のアパートでは日本人入居率が100%近くになるところも珍しくありません。

(食事)

食材の調達は、「トップスマーケット」や「ビッグシー」といったローカルのスーパーもありますし、また、スクンビット地区には、日本食材を取り扱う「フジスーパー」や日系スーパーの「マックスバリュ」もあります。最近進出した「ドン・ドン・ドンキ」でも多くの日本産食材を扱っています。

また、外国人観光客はじめ国際色豊かなバンコクでは、タイ料理以外にも中華や韓国料理、イタリアンなど様々なレストランがあります。日本食レストランは、バンコクに1700店以上（タイには3000店舗以上）あり、和食レストランやお寿司屋、居酒屋、ラーメン店など様々なお店が出店しています。愛知県からも居酒屋の「世界のやまちゃん」、お蕎麦の「サガミ」、カレーの「COCO 壺番屋」などが進出しています。

なお、最近バンコクでは、「Food Panda」や「Line Man」といった、スマホから様々なレストランの料理を注文し配達してくれるサービスが広がっており、年々利用者が増加しています。

(フジスーパー)



(やまちゃん)



(医療)

高温多湿な気候のタイでは、日本ではあまりなじみのない病気にかかることがあります、日本脳炎や破傷風、A・B型肝炎、狂犬病など多くの予防接種が必要となりますので、赴任が決まったら、計画的に受診されることをお勧めします。

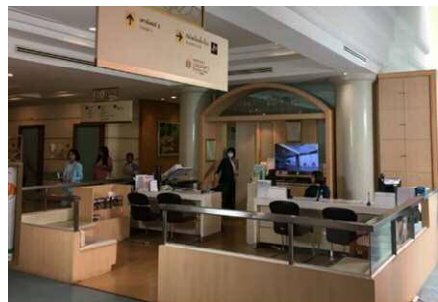
タイは、アジアの中でも比較的医療レベルが高いと言われており、周辺国から医療目的で訪れる外国人も少なくありません。外国人向けの病院もいくつかあり、そうした病院では専門用語のわかる通訳を配置しているほか、スクンビット地区には日本人向けの歯科医院もあります。なお、海外での治療費は高額になりますので、赴任の際には必ず保険に入るようにしてください。

また、大きな病気でなくても、風邪や食あたりになることはよくあります。こうした病気にかからないためには、日頃から規則正しい生活や運動を行うなど、体調管理することが大切です。

(外国人向けのサミティベート病院)



(同病院の日本人窓口)



(同病院の小児科)



(日本人向け歯科医院)



(交通)

バンコクには、高架鉄道 (BTS) や地下鉄 (MRT) といった鉄道が整備されており、都内の移動手段として大変便利です。延伸や新規路線の建設も進んでおり、現在の 5 路線から今後数年内には 10 路線以上に増える計画となっています。

また、タクシーは料金が安く利用する機会も多くなるとは思いますが、乗車拒否や英語が通じないケースもあります。このため、最近は配車アプリのグラブの利用も広がり始めています。

なお、朝夕の時間帯や雨が降ると都心の渋滞は激しく、通常車で 15 分程度の移動に 1 時間以上かかることもありますので、車での移動の際にはご注意ください。

この他、スクンビット地区には、軽トラックを改造した「シーロー」とよばれる乗り物があり 40 バーツ程度で同地区内を移動してくれます。また、バイクタクシーもありますが、事故になることが多いので、利用はおすすめしません。

(BTS)



(シーロー)



(学校、塾)

お子さんがいるご家庭では、学校事情についても気になると思います。タイには、日本人学校がバンコクとチョンブリー県のシーラーチャーにあります。バンコクの日本人学校は、在校生は小学部、中学部あわせて 2600 人以上在籍しており、マンモス校となっています。

通学にはスクールバスが各アパートを回るため、アパートの場所によっては朝早く家を出発する必要があります。

日本のように近くに安心して遊べる公園はほとんどないので、屋内や友人のアパート内で遊ぶことも多いようです。また、バンコクには日系の学習塾やスポーツクラブなどもありますので、こうした所へ通われるお子さんもいらっしゃいます。

タイには多くの日系企業が進出しており、在留邦人届出数は約 7 万人にもなります。特にバンコクは、世界でも有数の日本人が集まっている都市であるため、日本人をターゲットにしたお店も多く、東南アジアの中でも生活しやすい環境にあると思います。

当センターでは、バンコクでの生活環境等につきましても可能な範囲で情報提供しますので、赴任を控えている方など、遠慮なくご連絡ください。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。